

緑の国際ボランティア研修(2016年度)

本研修は、国際緑化活動の重要性や緑の募金が果たす役割について研修員の理解を深めることを目指して、カンボジア国東部クラチェ州・モンドルキリ州において実施するものです。1973年に72%であったカンボジア国の森林面積率は、2014年には48%まで激減しました。カンボジア国東部クラチェ州およびモンドルキリ州においても収奪的な森林伐採による森林の減少と劣化が深刻な状況にあります。本研修ではカンボジア国東部の農地開発や経済的土地営業権（経済的土地コンセッション契約）等による森林伐採地に訪問し、NGOが取り組む植林活動地の視察、植林体験、地域住民との意見交換等を実施します。本研修を通してカンボジア国における森林管理の現状およびその背景を学び、人と自然との共生の在り方や持続可能な開発について考察していきましょう。

【主なスケジュール（予定）】

- 2/12 成田発、カンボジア国プノンペンへ空路移動（現地集合）
- 2/13 環境修復保全機構（ERECON）カンボジア支局訪問、キリングフィールド、トゥール・スレン博物館訪問
- 2/14 クラチェ州に陸路移動、ERECONが取り組む「クラチェ州における生物多様性の保全を目指した植林活動」の視察、「クラチェ州における自然資源管理の有機農法を軸とした持続可能な農村基盤作りに取り組む活動」の視察
- 2/15 クラチェ州の小学校における研修員による環境教育ワークショップの開催
- 2/16 モンドルキリ州に陸路移動、ERECONが取り組む「モンドルキリ州における里山再生を目指した緑化推進活動」の現地視察、地域住民と協働しての植林体験
- 2/17 研修員の企画による地域住民との交流
- 2/18 プノンペンへ陸路移動
- 2/19 プノンペン市内視察、成田へ空路移動（現地解散）
- 2/20 成田着（午後）

※ 現地集合・現地解散となりますが、随行スタッフが研修員の渡航便に同行します。



期間：2017年2月12日（日）～2月20日（月）

定員：10名

費用：80,000円（渡航費含む）

応募資格：国際緑化協力に関心がある方、NGO活動に興味のある方など

締切：**2016年11月18日（木）必着**

応募方法：ホームページ(www.erecon.jp)を確認の上、必要書類をメール・郵送にてご提出下さい。

実施者	お問い合わせ・申込先
主催：公益社団法人 国土緑化推進機構 (http://www.green.or.jp) 共催：特定非営利活動法人 環境修復保全機構 (http://www.erecon.jp)	特定非営利活動法人 環境修復保全機構（ERECON） 担当：上野・三輪 住所：東京町田市小野路町 2987-1 Tel：042-736-8972 Fax：042-736-8972 E-mail： hq-erecon@nifty.com

※ 本研修は「緑の募金」の支援を得て実施するものです。

緑の国際ボランティア研修
環境修復保全機構(ERECON)
Tel:042-736-8972
E-mail:hq-erecon@nifty.com
www.erecon.jp

緑の国際ボランティア研修
環境修復保全機構(ERECON)
Tel:042-736-8972
E-mail:hq-erecon@nifty.com
www.erecon.jp

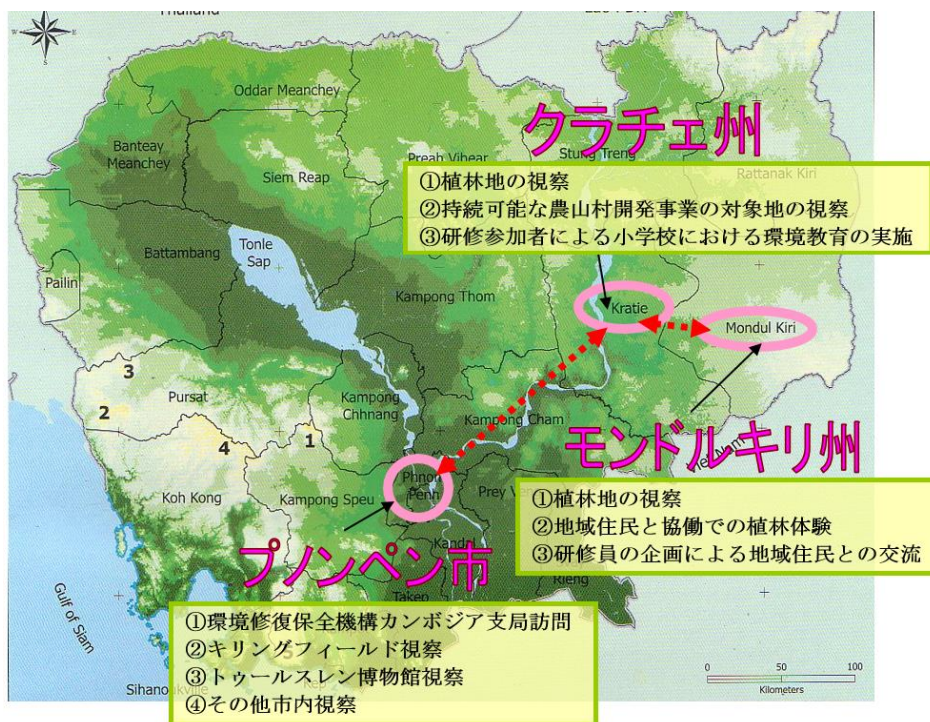
緑の国際ボランティア研修
環境修復保全機構(ERECON)
Tel:042-736-8972
E-mail:hq-erecon@nifty.com
www.erecon.jp

緑の国際ボランティア研修
環境修復保全機構(ERECON)
Tel:042-736-8972
E-mail:hq-erecon@nifty.com
www.erecon.jp

緑の国際ボランティア研修
環境修復保全機構(ERECON)
Tel:042-736-8972
E-mail:hq-erecon@nifty.com
www.erecon.jp

<カンボジア国における森林の現状と取り組み>

近年、カンボジア国では経済性のみ重点を置いた開発により、自然環境や生物多様性が急速に失われています。環境・経済・社会が調和した「持続可能な開発」の重要性が認識されているものの、山林に近い農村域では貧困からの脱却を目指した違法伐採が続いているとともに、経済的土地営業権（経済的土地コンセンション契約）等の影響により、森林面積は急激に減少しています。1980年代は310万haの国土が農地であり、1,180万haが森林に覆われていました。しかし、1993年頃には森林面積の内70万haが農地へと転換されました。クメールルージュ前後の時期からカンボジア国の森林面積は徐々に減少しており、特に1970年代から1990年代末に至る間に多くの森林が失われました。しかし、材木の輸出は国家歳入を確保する上で重要な位置を占めており、カンボジア国政府も森林伐採に対して積極的な規制には至りませんでした。特に本研修で訪問するクラチェ州、モンドルキリ州では森林伐採が著しく、自然資源に依存したこれまでの生活様式が急激に変貌しています。環境修復保全機構では両州における里山再生および生物多様性の保全を目指した植林活動を通して、農山村地域において持続可能な開発に取り組んでいます。



研修実施位置図

… 主催・共催団体紹介 …



公益社団法人
国土緑化推進機構 (NALAPO)

国土緑化推進機構は、国土緑化運動を推進することにより、森林資源の造成、国土の保全及び水資源のかん養並びに生活環境の緑化をはかり、より心豊かな国民生活の実現、日本の文化的発展、さらには地球環境の保全に寄与すること及び国際貢献を目的としています。緑の国際ボランティアでは、青少年が緑の募金国際協力事業地のワーキングツアーに参加し、将来、国際緑地協力の場で活躍できる見識豊かな国際ボランティアを養成することを目的としています。(http://www.green.or.jp/)



特定非営利活動法人
環境修復保全機構 (ERECON)

環境修復保全機構は、タイ、カンボジア、フィリピン、ネパールを中心にアジア諸国における「農業的・都市的開発と自然環境との調和」を目指した環境修復保全に取り組んでいます。また、環境教育啓蒙の活動を通して、現地の人々が自然資源を持続的に利用していただけることを目的として活動しています。(http://www.erecon.jp/)